伝統を次の世代へ・山道地区

12月25日（日）、山道老人憩いの家で、山道弥生画保存会（小野寺秀昭会長）と地区の子どもたちを中野町長が激励に訪れ、穀物の貼り付け作業を一緒に行いました。

保存会の弥生画は自然の穀物の色以外は一切使わない400年の伝統を受け継ぐ作品です。今年の弥生画制作は、11月下旬から始められ、12月21日に完成しました。今年の作品は艶やかに舞う「静御前」で、五穀豊穣、そして人を思いやる心と平和への願いが込められ制作されました。

また、子どもたちの弥生画は、冬休みが始まった12月23日（金）から制作が始まりました。今年の作品は獅子舞と干支の辰のキャラクターをモチーフにしたとても愛らしい弥生画です。

制作する子どもたちは、小野寺会長や地区の方々から穀物の貼り方を教わりながら、根気のいる細かい貼り付け作業を集中して行っていました。

２つの弥生画は、12月30日（金）に地区の神社に奉納され、神社入り口の鳥居に飾られています。

△今年の弥生画「静御前」

①地域の方々と子どもたちをまとめる渋谷町内会長　②根気のいる穀物の選別作業　③子どもたちから「校長先生」と慕われる小野寺代表　④中野町長も輪郭の豆を一粒ずつ貼り付けていく　⑤集中して作業に励む子どもたち

②

①

④

③

⑤

12/17 中央保育所クリスマス会

12/25 元町弥生会の奉納準備

12/15 商工会で年末スペシャル商品券が販売される

あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（☎22－2111 内線263）

生産と経営を学ぶ農業大学講座

12月19日（月）～21日（水）、鶴田町農村環境改善センター「豊明館」において「平成23年度鶴田町農業大学講座」が開催され、延べ90人の受講生（主に農業経営者）が、生産技術向上や経営の安定化について学びました。

講義では、黄色系リンゴのメリットと有望品種、農産物ブランド化への取り組み、リンゴ・コメ以外の振興作物について、田んぼの雑草対策などを学び、２日目の午後は、藤崎町と弘前市に出向き、「花きと促成アスパラガス栽培」、「野菜の無加温ハウス栽培」など、実際の栽培現場を視察しました。

△黄色系りんごのメリットについて語る県りんご研究所 赤田朝子氏

△アスパラガスの促成栽培を見学する受講生（藤崎町）

竹浪正造さんの絵日記出版を祝う

・左上／町内外から多くの方がパーティーに駆けつけた　・右／笑顔でお礼のあいさつを述べる竹浪さん　・左下／出席できなかった長男正浩さんからのメッセージに目頭を熱くする竹浪さん（左は甥の竹浪正顕さん）

12月10日（土）、竹浪正造さん（93）が56年間描き続けた絵日記「はげましてはげまされて」の出版を祝う会が国際交流会館で開かれました。

出版元の廣済堂出版によると、発行部数はなんと新人作家異例の26万部に達して、集まった関係者の皆さんが本のベストセラーを併せて喜びました。

竹浪さんはいたずら好きの長男正浩さんの成長を記録しようと、1954年からほぼ毎日、絵日記を描き続けて、これまでに2297冊にのぼります。今年５月にテレビ朝日系の「ナニコレ珍百景」で取り上げられた際に編集者の目に留まり、出版が決まりました。

この日、ツル多はげます会の幹事長でもある竹浪さんは「生きている限り日記を描き続けたい。皆さんもはげのわたしをうんと励ましてください」とユーモアたっぷりにあいさつを述べ、駆けつけた子どもたちやひ孫とともに、ステージの上で絵日記の大ヒットを喜びました。

町わい化栽培技術研究会が30周年

12月15日（木）、国際交流会館において、来賓および関係者100人が出席して「鶴田町わい化栽培技術研究会創立30周年記念式典」が執り行われました。

式典では、リンゴのわい化の研究と普及に尽力された、歴代の会長3人（長峰誠さん、瓜田弘樹さん、花田英昭さん）に感謝状の贈呈が行われました。

式典で田澤明裕会長は「足腰の強いリンゴ栽培を目指し、技術を向上させていきたい。30周年を機に一層の努力と次を担う若い後継者たちに持てる技術を教え、リンゴ栽培をさらなる高みへと上げていきたい」と意欲を述べていました。

△お祝いの花で飾られた式典会場

△もっと栽培技術を向上させたいと語る田澤明裕会長